

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870700317		
法人名	有限会社かなくぼ薬局		
事業所名	グループホームハーモニー城ノ内		
所在地	茨城県結城市結城8670-2		
自己評価作成日	平成27年11月2日	評価結果市町村受理日	平成28年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0870700317-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成27年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然の採光を取り入れた住まいとペット(豚) ・毎日の散歩を通して地域の人々と交流を図っている ・家族との連携に努めている ・勉強会や研修会に参加し、ケアの向上に努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅と農村地帯とが混在した場所に立地する施設である。広大な敷地にはデイサービスとグループホームが隣接されている。管理者、施設長、スタッフが積極的に研修会に参加したり、外部講師を招いた研修会を行っている。デイサービスの看護師を講師に急変時対応などのスキルアップに繋げている様子が伺われます。また、日々の散歩を通して近隣住民との交流を図り、ボランティアと共に利用者への支援に繋がっています。</p>

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	正面玄関、出入り口に理念を掲示し共有・実践につなげている 新入職員に対してもオリエンテーションで共有・説明	日々を通して理念の共有は行っていないが、共有空間に掲げて個々のスタッフが振り返り、支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩などで近隣の方と挨拶を交わしたり施設の行事がある時、お招きしている	自治会に加入しているが、行事に参加する機会は少ない。地域の方を招き、施設内で納涼会を開催している。また、フラダンスや絵葉書、和太鼓など、デイサービスと合同でボランティアを迎え、利用者と共に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方も、老人クラブの方など参加して頂き、一緒に盆踊りを踊ったり歌をうたったりするなかで認知症の人の理解につながっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごとの会議において主要日誌報告、話し合い、ご意見いただき、感想も書いて頂きサービス向上につなげている	年6回奇数月に行っている。参加者は行政、利用者家族、民生委員、施設管理者、自治会長が参加している。利用者家族は家族会を作り、会費制で運営されている。会議では活発な意見交換がなされている。議事録は利用者の写真と共に郵送されている。	定期的に推進会議が行われている。推進会議のあり方や参加者、地域の方を交えた意見交換の場として再確認をして頂きたい。また、災害時の地域の方の協力体制についても話し合い具体的支援に繋げていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には事業所の実情や取り組みを伝え、推進会議においても協力をいただいている	地域連絡協議会の立上げはされているが活動はない。推進会議に行政が参加しており、その場で介護保険や改正などの質問の返答がされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的開催し拘束と思われる事例について話し合いをしている	安全・予防を目的として、委員会で話し合い、家族の同意を経て行っている。長期にわたっている利用者についても、家族の同意が曖昧な部分があるので再度説明し同意を経ていく。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、不適切な介護について研修しレポートを書き、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について研修をして学んでいきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の前に、見学や事前訪問を行い、じゅうぶんに理解していただくよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価によりアンケート、家族会総会における発言・意見を頂き、運営に反映させている	利用者の意見は日々の支援を通して聞き、食事に関する要望などがある。面会時に家族に日々の様子を伝えると共に、意見を聞く支援に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体研修では感想を述べてもらったり、毎週土曜日に行うリーダー会議、月1回行うセクション会議等においては意見を聞くなど様々な機会があり運営に反映させている	外部研修の伝達研修やスタッフ間でテーマを決めての学習会を行っている。また、季節に合わせた感染症の勉強会を行い周知している。	スキルアップに繋げるための研修会など、積極的に行われていますが、その内容などを後日見直し確認するには、資料その他が分散しています。各議事録、資料の整理整頓について検討して頂きたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況、事情を管理者を通じて把握し、研修の参加、労働時間の調整、処遇の改善などの整備をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修、外部研修の伝達講習、介護技術のDVDなどを通して、職員を育てていけるように図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	結城市地域密着型サービス連絡協議会、県老人福祉協議会などへの参加により、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の希望、不安等を聞き、安心できる様な関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の求めている事、希望等について耳を傾けながら関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思いや状況を確認し必要としている支援を見極め、可能な限り柔軟な対応ができる様に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様がより良く過ごせるように利用者様の立場を考えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様とご家族様の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方や、本人の知人の方等の面会がゆっくりできるよう配慮したり、絵手紙を描いて送る支援をしている	日常的に自転車や家族に送られて友人が面会に来ている。お墓参りは家族の支援を得て行っている。馴染みの食べ物などの要望なども聞き支援に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で話し合える空間を作る様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には、お見舞いに病院へ行ったり、自宅に戻られた方には居宅CMさんに継いだり施設行事に招待したりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様にあった暮らし方を考えながら努めている	日々の支援を通して思いや意向を把握し、支援に繋げている。買い物や散歩など、利用者一人一人に合わせた支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅CMからの情報や、入院していた病院のサマリー、ご本人ご家族から得た情報を職員間で共有しこれまでの暮らし方の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身状態を把握しながら努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様にあった暮らし方、ご家族様の意見をまとめ、介護計画を作成している	スタッフがアセスメントを行い、ケアマネージャーが介護計画を作成している。施設独自のモニタリング表を作成し、食事、身だしなみ、排泄、移動、リハビリなど、9項目について立案支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の支援経過記録や受診ノート等の記録を職員で共有しプランの見直しに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスと合同の行事参加、個別送迎による外来受診の支援、ヘアカットサービスなどを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の先生によるいきいき体操、カラオケ教室、フラダンス歌謡ショー、中学校生徒、園児との交流、ふれあい祭りの参加などを楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医での受診 家族がいけない時は職員が同行 月1回往診に先生が来てくださり、細やかな指導・助言があり信頼している	利用者一人一人に受診ノートを作成し、受診結果を記録し、緊急時持参している。突発受診のみ介護記録に記録し、管理者が家族に電話連絡している。往診は月に1回行われ、歯科は随時受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝看護師により一人ひとりの体調チェックやバイタルチェック、服薬確認、患部の処置など対応している 急変時の指示や指導もある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はかかりつけ医の指示に従い病院との連携をとる MSWと連携し早期退院につなげている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・主治医と話し合い 積極的な医療が必要な時、状況が重度化している時、家族・ご本人を交えて話し合い、施設での対応についてもお話しする	家族の要望に合わせて、見取りを行っている。見取りを行う上では、医師、家族、スタッフと話し合いを行い取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況によりヒヤリハットの報告を受けて看護師により指導頂く 結城消防署において救命救急を受講 伝達受講も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	結城消防署立ち会いのもと避難訓練を行う 大規模災害対策について施設内研修	防火管理者を中心に、災害について意識の向上に努めている。年3回の訓練を行っているが、地域、近隣住民の参加はない。火災時の消防車到着時間や避難誘導などの具体的シミュレーションについて検討して頂く。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴時の言葉かけに気をつけている	利用者一人一人に合わせた言葉かけや対応に気を付けて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	カラオケ教室や絵手紙教室への参加、買い物や外出、外食等で自己決定していただくよう働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩・体操・読書・テレビ・折り紙・音楽・ぬり絵・裁縫・パズル・計算漢字問題など希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	納涼祭にはお化粧したり、外食お出かけには帽子やスカーフなどえらんでおしゃれを楽しんでいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	梅干し作り、トウモロコシの皮むき、露の皮むき、インゲンのしんとり、おやつを手作りしたり、後片付けを職員と行っている	厨房にて調理員が食事を作り、スタッフが盛り付けを行っている。経営者の意向で盛り付け担当者はエプロンと帽子を着用している。感染管理面において手洗い後のタオル使用を検討して頂きたい。嚥下障害があると思われる利用者の食事について、デイの看護師に相談するなど検討して欲しい。利用者が自力で食事を食べることや職員が同席して食事を食べることについても検討して頂きたい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録している 不足や変化がある時は看護師と連携、相談し対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前に口腔体操、食後に口腔ケアの支援 毎月1回歯科衛生士の方に来所して見ていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけることで、一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導、介助を行っている 尿意、便意のサインを観察し対応している	排泄向上委員会を中心に、オムツを使用しない支援を行っている。排泄パターンの把握や時間での声掛け、手引きによる誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で最終排便日を確認している 日々の体操や歩行訓練で身体を動かし、水分摂取をすすめ、薬の調整が必要な場合、看護師と連携し対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせた入浴方法や温度調節を行い、スタッフと1対1でゆっくり入浴していただけるようにしている 拒否のある方には、安心できる声かけを行うようにしている	週3~4日間、または要望に合わせて毎日入浴している利用者がいる。二人介助を行いながらも、浴槽への入浴支援を行っている。足ふきマットにタオルを敷いて交換するなど、感染管理に留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休む時間は決めず、それぞれ自由に行っている 前日の夜間の様子によってなど様子を見て休息を促し、照明やドアの開閉など一人ひとりに合わせ対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報をファイルにまとめいつでも確認できるようにしている 服薬準備はスタッフ1人ではなく2人で確認するようにし、服薬状況の確認と合わせ、業務日誌でチェックしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブルや食器拭き、洗濯物をたたんだり干したり、戸締りなどの家事、読書、歌、絵、裁縫などの個別の役割、楽しみを持てるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩や外気浴を行い、外での時間を過ごしている 季節ごとに花見、初詣、外食などで外出の機会を支援している	四季折々に合わせて、お花見や初詣に出かけている。年1回のひまわり会(家族会)総会時には、家族と共にレストランでの食事会を行い、利用者全員で参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段お金の所持はしていないが、自販機で飲み物を買う方もいる 買い物の機会を作りお金を持って出かけた		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族あてに年賀状を書いて送ったり、電話の取り次ぎを行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭の手入れ、共用の空間の清潔を保ち、季節感が出る工夫をしている 居心地の良い空間作りを心がけている	木造作りの暖かさと天井が高く落ち着いた雰囲気 の施設である。季節の飾りや写真が飾られ、居心地良い空間作りがされている。また、絵手紙などの作品が飾られ日々の生活が分かり易く感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	置のスペースや廊下のソファやテーブルを用意している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を置いたり自分の作品を置いたり、自宅のなじみの物を持ってきていただいている	居室には馴染みの家具や仏壇が置かれ、写真や作品が置かれ居心地よく過ごせるような工夫がされている。家族の面会時には、居室で過ごせるようテーブルやいすが置かれ、落ち着いた居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくし、手すりをつけ、目印なども工夫している		

(別紙4(2))

事業所名:ハーモニー城の内

目標達成計画

作成日:平成28年3月20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所理念の共有化が不十分である。	事業所理念を全職員が理解し共有する。	各セクション会議、ミーティング等を通し、理念の理解、共有に務める。	6ヶ月
2	2	地域との協力体制を築いて、防災および災害等に備えたい。	地域住民、消防団等の連携を図り協力体制を強化する。	運営推進会議、施設行事等への参加をお願いする。	12ヶ月
3	13	職員間の介護技能、技術にばらつきがみられる。	介護技術の向上に努める。	施設内研修及び外部研修等で身に付けたことを具体的に実践する。	12ヶ月
4	35	利用者の急変時や事故等、応急手当や初期対応にそなえる。。	すべての職員が応急手当、初期対応ができる。	施設内で訓練を繰り返し行う。 消防署員等による救急救命講習等を開催し訓練を行い、身に付ける。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。